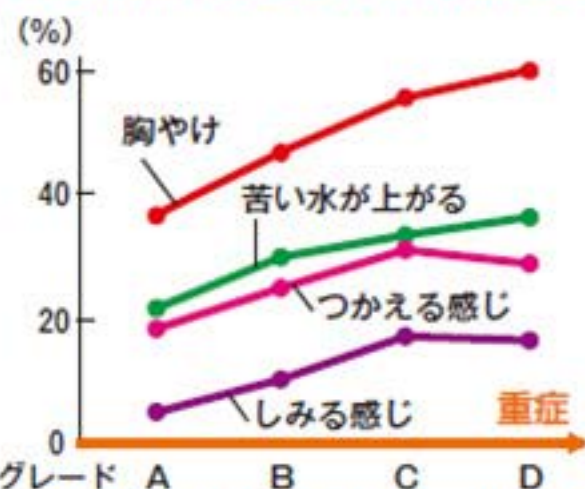


胸やけのすっぱいのどのヒリヒリ

長引くせまな逆流性食道炎の症状と回復度もわかる 3分診断

逆流性食道炎の主な症状



逆流性食道炎（胃食道逆流症）の症状で特徴的なものは、胸やけ、すっぱい（苦い）胃液がのどまでこみ上げる呑酸のほか、胸がつかえる感じやのどの違和感を訴える人も多い。

上の表は、佐賀県の高施設において、胸やけなどの症状と逆流性食道炎の重症度を比べた結果。重症になるにつれ、胸やけ症状を訴える人が多くなる。

【日本内科学会雑誌】（2009年）より改変

胃食道逆流症の患者さんがよく訴えるのは、胸やけ、呑酸、ゲップ、吐き気、胃もたれなどです。

●胸やけ・呑酸・ゲップ・吐き気

これらの特徴的な症状以外にも、さまざまな症状を訴える人がいます。そこで、実際にどのような症状が現れるのか、主なものを以下にまとめましたので、ぜひ参考にしてください。

逆流性食道炎など胃食道逆流症（以下、胃食道逆流症と総称する）の症状は、胸やけが主な症状といわれますが、そればかりではありません。症状は人それぞれで、多岐に

わたります。私のクリニックを訪れる胃食道逆流症の患者さんの中には、のどの違和感を訴える方も数多くいらっしゃいます。のど元がヒリヒリ痛むこともあり、消化器内科よりも耳鼻咽喉科でまず診察を受ける人も多いようです。

また、呑酸（すっぱい胃液がのどまで上がってくる感覚）を訴える患者さんもたくさんいます。呑酸は胃食道逆流症の特徴的な症状ですので、こうした症状があれば、消化器内科を受診することをおすすめします。

のどの違和感を訴える人も多い

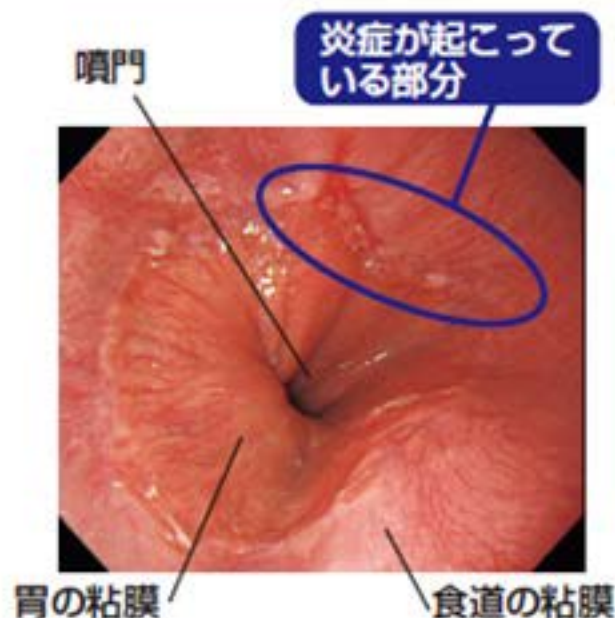
逆流性食道炎は狭心症などの別病気と間違えやすく、胸やけに加えすっぱいこみ上げがあれば要注意

きたやま胃腸肝門クリニック院長

北山大祐

●北山大祐先生が診察をされているきたやま胃腸肝門クリニックは、〒154-0503（644-13）1642です。

食道粘膜の炎症の例



逆流性食道炎の患者さんの噴門部（食道胃接合部）を食道側から見た写真。中央が噴門で、外側（手前）の白っぽいピンク色に見える部分は食道の粘膜。その内側（噴門側）は胃の粘膜。境界部分に炎症が起こっているのがわかる。

治療効果の 確認にも使える

胸やけや吞酸（すっぱい胃液がのどまで上がってくる感覚）がしても、逆流性食道炎などの胃食道逆流症（以下、胃食道逆流症と総称する）かどうかは、一般の人にはなか

なか見分けがつかないものです。そこで紹介したいのが、病医院でも使っている「Fスケール問診票」（逆流性食道炎チェックシート）です。どのような病気の診察でも問診が重要視されますが、胃食道逆流症は別の病気と間違われやすいこともあり、質問

のしかたが重要です。

Fスケールを考案した群馬

大学医学部附属病院の草野元

康先生によると、Fスケール

の質問項目は、50項目の症状

から胃食道逆流症の患者さん

が最も多く訴えた上位項目を

選び出したもので、症状が現

れる頻度などを考慮して点数

化したということです。

症状が点数化されているた

めに、単に診断がしやすくな

っただけではなく、治療効果

の確認や再発診断にも使える

ようになっていきます。

みなさんも、自分の症状が

胃食道逆流症なのか、もし治

療中ならどの程度まで回復し

ているか、治療したあとであ

れば再発はないかななどの見当

がつきやすくなります。

あなたの症状が逆流性食道炎かわかる！ 医師も診断に逆流性食道炎チェックシート 利用する

せたやまだいすけ
北山大祐

12の質問項目に 答えるだけでわかる

では、Fスケールの主な質問項目の説明をしましょう。

質問は12項目ありますが、

必ずしも初期症状から順に並

んでいるわけではありません。

項目の1、6、12の「胸や

け」、10の「苦い水（胃酸）」

は、胃食道逆流症の代表的な

症状といえます。

7の「のどの違和感」、9

の「のどのつかえ」も、胃食

道逆流症の患者さんの多くに

見られる症状で、初めは耳鼻

咽喉科を受診したものの、胃

食道逆流症が疑われて私のク

リニックに移ってきたという

患者さんもおおぜいいます。

4の「思わず手のひらで胸

をこする」というのは、胸に

違和感を覚えたときに現れる

行動の一つでしょう。心臓が

原因の胸痛であれば強い痛み

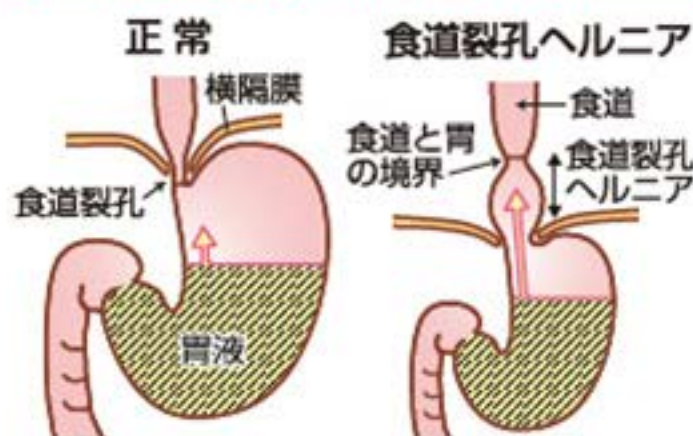
が現れますが、胃食道逆流症

では痛みが軽かったり違和感

胃が横隔膜の上部にはみ出す 食道裂孔ヘルニアが改善!

横隔膜と胃の位置を正常に戻す自力ケア ヘルニア戻し押圧

食道裂孔ヘルニアとは



横隔膜にある食道が通る孔「食道裂孔」が老化によってゆるみ、胃の一部が横隔膜から上へ飛び出した状態のこと。その結果、胃の入り口を締める力が弱まり、胃酸が逆流しやすくなる。

多くは「どうしたら、治りますか」と質問されます。おそろく、裂孔やヘルニアという言葉から、重大なイメージを持たれるようです。しかし、食道裂孔ヘルニアは、多くが年齢の経過によって起こる自然な老

ある種の加齢現象でもあるのに、食道裂孔ヘルニアが問題になってしまうのは、食道裂孔ヘルニアの人が、胃酸の逆流により逆流性食道炎になると、その症状が悪化しやすかったり、治りにくかったりするからでしょう。また、食道裂孔ヘルニアのある人は増加しており、それが逆流性食道炎の人が増えている一因ともなっています。では、なぜ食道裂孔ヘルニアがあると、逆流性食道炎が

逆流性食道炎になりやすい要因の一つに「食道裂孔ヘルニア」があります。食道裂孔ヘルニアとは、通常、横隔膜

食道裂孔ヘルニアは自然な老化現象の一つ

(胸部と腹部の間にある筋肉でできた膜)の下にある胃の一部が、横隔膜の上に飛び出している状態を指します。内視鏡検査の説明の際、初めて「食道裂孔ヘルニアがある」と告げられた患者さんの

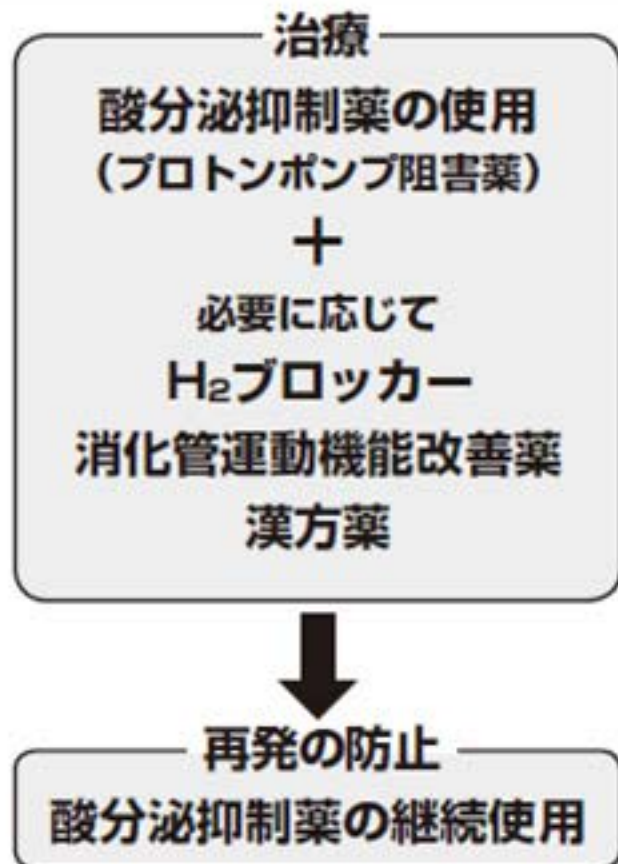
化現象の一つなのです(生まれつきゆるみの大きい人もいます)。歳とともに皮膚にシワができたり、筋力が低下したりするのと同じようなものなので、過度に心配する必要はありません。

食道と胃を隔てる横隔膜がゆるんで胃が上部にはみ出す
食道裂孔ヘルニアに悩む人が急増

きたやま胃腸肛門クリニック院長

きたやまだいすけ
北山大祐

逆流性食道炎の薬物治療



逆流性食道炎の治療は薬物療法が基本

胸やけや吞酸(すっぱい胃液がのどまで上がってくる感覚)、のど元の違和感など、逆流性食道炎など胃食道逆流

症の症状は、命にかかわることとはありませんが、とてもつらいものです。

こうした症状がくり返し起こる人は、内視鏡検査などで診断をつけてもらったうえで、しっかり治療することが

胃酸の分泌を抑える消化管の運動機能を改善する薬

など逆流性食道炎の治療薬一覽

きたやま胃腸専門クリニック院長

きたやまだいすけ
北山大祐

大切です。

逆流性食道炎の治療の基本は薬物療法で、胃酸の分泌を抑える薬の内服が中心になります。もちろん、胃液の逆流が起こる原因には生活習慣などのさまざまな要因が考えられます。

そのひとつとして「食道裂孔ヘルニア」という、食道と胃のつなぎ目のゆるみの原因で胃酸が逆流しやすくなっている場合があります。そのような患者さんには、そんな生活習慣の改善をお話ししながら、投薬などの治療を行っています。

この記事では、逆流性食道炎の治療に使われる薬について、くわしく説明していきます。

胃酸の分泌を強力に抑える

逆流性食道炎の治療の中心になるのが、胃酸の分泌を抑える「酸分泌抑制薬」です。噴門部(食道と胃のつなぎめ)のゆるみは生まれつきであったり、加齢による変化であったりするため、ゆるみそのものを改善できるような薬はありません。

そこで、酸分泌抑制薬で胃液の中の胃酸を減らし、胃液が食道内に逆流しても食道を傷つけないようにするわけです。

酸分泌抑制薬で第一選択として使われるのが「プロトンポンプ阻害薬(PPI)」です。

●プロトンポンプ阻害薬(PPI)

プロトンポンプ阻害薬(PPI)は、現在のところ、最も強い酸分泌抑制薬で、胃潰瘍や十二指腸潰瘍のときにも使われます。

薬物療法の注意点



逆流性食道炎の薬物療法はあくまで対症療法であり、薬を使って胸やけや呑酸といった症状がよくなったとしても、発症したときと同じような生活習慣をしていれば、多くの場合再発をしてしまう。そうならないためには、薬を使うとともに、症状の原因となりうる生活習慣を改めることが大切。

●H₂ブロッカー

H₂ブロッカーというヒスタミンH₂受容体拮抗薬を使うこともあります。

これは、胃酸の分泌を促すヒスタミンという物質を受け取る受容体をブロックすることで、胃酸分泌を促す指令の伝達を止めようというものです。

●消化管運動機能改善薬

食後に胃もたれなどがある場合、消化不良から胃液が逆流し兼ねません。胃の働きをよ

くして蠕動運動（内容物を先送りする運動）を活発にする

従来の作用機序と異なり早急に多くの人が治る 逆流性食道炎の新薬が登場

せたやまだいすけ
北山大祐

ことにより胃酸の逆流を少なくすることが可能です。

そのためには、消化管運動機能改善薬であるモサプリド（商品名ガスモチン）も有効です。

●漢方薬

自覚症状改善と体質改善などを期待して漢方薬を使うことがあります。

こうした場合、のどのつかえ感や不安神経症などに効果のある「半夏厚朴湯」という漢方薬を、非びらん性胃食道逆流症の患者さんを中心に使います。

薬を使うとともに生活習慣を改めよう

以上、逆流性食道炎の薬物治療に使う主な薬について説明しました。しかし、これらの薬を使って逆流性食道炎の症状がよくなったとしても、発症したときと同じような生活習慣を続けていけば、多くの場合再発をしてしまいます。

そうならないため、薬を使うとともに症状の原因となる生活習慣を改めることが大切です。

従来と違う作用で

胃酸の分泌を抑える

1990年代から使われるようになったプロトンポンプ

阻害薬（PPI）は、胃壁細胞

にあり胃酸分泌を行うプロトンポンプという分子の働きを抑える薬で、逆流性食道炎などの胃食道逆流症に、とて

も効果的な薬です。

ところが、従来のPPIは、効果が出るまでに時間がかかったり、効果に個人差があったりしました。逆流性食